

# 睡蓮

S U I R E N

愛知大学  
教育研究支援財団  
広報誌

07

2020 / 4



## 巻頭特集【知の対話】

プロデューサーと制作者、立場の異なる2人が  
芸術への熱き想いを語り尽くす。

幸兵衛窯 当主

七代 加藤 幸兵衛



愛知芸術文化センター総長

神田 真秋

## Professional Eye

クラシック音楽を通じ、  
社会に恩返しをしたい。

宗次ホール 代表

宗次 徳二



AERS

知で 活きる人へ。

公益財団法人 愛知大学  
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION

## Contents

### 【知の対話】

プロデューサーと制作者、  
立場の異なる2人が  
芸術への  
熱き想いを語り尽くす。

P.03

### 【Professional Eye】

クラシック音楽を通じ、  
社会に恩返しをしたい。

宗次ホール 代表 宗次 徳二

P.08

### 【AERSの一年】

#### 【海外活動の支援】

グローバル活動

P.11

#### 【教育活動の支援】

学術講演会等

P.14

寄贈品の紹介

P.15

奨学金・奨励賞授与等

P.16

### 【寄附金名簿】

P.18

同窓会長・後援会長ご紹介

P.19

### 「睡蓮」について（題字「睡蓮」平松 礼二氏 筆）

愛知大学の教育思想は、国際社会や地域社会のリーダーとなり、世界をダイナミックに動かす人材を育てること。睡蓮の花言葉には、そのような人材に必要な「清純な心」「純粋」「優しさ」「信頼」の意味が含まれており、彼らの未来を支える愛知大学教育研究支援財団の情報発信誌を「睡蓮」と名付けました。

### 表紙のご紹介

平松 礼二氏 作  
「夏の水面」(1999年)

池に浮かぶ睡蓮と白い雲。水面の青は、睡蓮を浮かばせる水の青と雲が浮かぶ夏空の青が映り、溶け合い一体となっている。その青はどこまでも深く透明で永遠の時間が流れているように思う。



## ごあいさつ

日頃、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」の活動に、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

戦前、中国・上海において、アジアで活躍する国際人を養成し、特に日中関係に貢献する人材の育成を目的に、海外に設けられた日本の高等教育機関であり、最も古い歴史をもつ名門・東亜同文書院大学。敗戦による閉校後、最後の学長であった本間喜一氏らが、「世界文化と平和に寄与すべき新日本の建設に適する国際的教養と視野を持つ人材の育成」を建学の精神とし、新設した大学が「愛知大学」であることから、東亜同文書院は愛知大学の祖といえるでしょう。愛知大学が開学から74年間で15万余の、そして今もグローバルな社会に毎年、優秀な人材を輩出し続けていることはこの精神が脈脈と継承されている証でもあります。また、2011年には社会に求められるより優秀な人材を育成するキャリア形成支援、学生の自立心を高め、積極的なチャレンジを促す課題解決型の正課外プログラム(ラーニングプラス)や海外フィールドスタディなどを拡充するため、名古屋駅前に新キャンパスを開設。東亜同文書院の理念実現のため、日々、愛知大学は進化し続けています。

しかし、時代は今回の新型コロナウイルスの脅威をはじめ、世界を取り巻く情勢の変化や猛スピードで開発されるAIなどの先端技術により、大きな変革の只中にあり、大学と学生を取り巻く環境もめまぐるしく変化し続けています。このような不透明な時代に、愛知大学及び愛知大学生の教育研究活動への支援を行うため、2012年11月公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」が設立されました。

本財団が学術研究助成、課外活動支援、奨学金制度、キャリア形成支援をはじめとする諸事業を積極的に推進することができたのも、この趣旨にご理解とご賛同をいただいております同窓会、後援会をはじめ、広く一般企業、個人の方からのご厚情の賜物でございます。そこで、今回、賛助会員様をはじめとする皆様当財団の事業内容をご報告し、成果を共有いただきたく、「睡蓮第7号」を送らせていただきます。ぜひ、ご高覧いただき、これからも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

公益財団法人  
愛知大学教育研究支援財団

加藤 満憲



### 評議員・理事名簿(2020年4月現在)

|     |        |    |             |
|-----|--------|----|-------------|
| 評議員 | 地主 道夫  | 理事 | 加藤 満憲(理事長)  |
|     | 近藤 薫   |    | 酒井 強次(常務理事) |
|     | 石川 健次  |    | 長谷川 信義      |
|     | 西原 健二  |    | 古川 為之       |
|     | 八木 好郎  |    | 那須 真理子      |
|     | 堀田 久富  |    | 柘植 繁久       |
|     | 杉本 みさ紀 |    | 土井 義昭       |
|     | 金田 学   |    | 山田 哲也       |
|     | 竹本 智洋  |    | 平井 治彦       |
|     | 佐々木 康司 |    | 唐 啓山        |
|     | 砂山 幸雄  |    | 中尾 浩        |
|     | 渡津 英一郎 |    | 近藤 智彦       |
|     | 吉本 理沙  |    | 功刀 由紀子      |
|     |        | 監事 | 兵藤 文男       |
|     |        |    | 南 成         |



巻頭特集

# 知の対話

幸兵衛窯 当主 七代 加藤 幸兵衛 × 愛知芸術文化センター総長 神田 真秋

プロデューサーと制作者、立場の異なる2人が  
芸術への熱き想いを語り尽くす。

愛知県知事時代に「愛・地球博」や「あいちトリエンナーレ」開催に尽力し、現在は愛知芸術文化センター総長として地域の芸術振興に取り組む神田 真秋氏。人間国宝を父に持ち、美濃焼を代表する窯の七代当主として創作活動に励む一方で、地域の陶芸振興を図る加藤 幸兵衛氏。立場は異なれど芸術への想いや指向の重なる両氏に、自らの芸術的ルーツや、取り組んでいる課題、今後の目標等を語っていただきました。

## 2人で通う京都 骨董市での駆け引きに 妙味を見つける

神田／今日は愛用する3つのぐい呑を持参しました。中でも加藤先生の三彩(陶芸技法の一種)はお気に入りの品です。

加藤／ありがとうございます。これは最近の作品ですね。

神田／そしてこの志野(陶芸技法の一種。美濃焼の伝統的なスタイルの一つ)は、先生が幸兵衛を襲名する以前の作品です。

加藤／30年くらい前の作品ですか。かなり愛用して頂いているようで、作家としても

嬉しいです。

神田／分かりますか。

加藤／ええ。志野は生地に貫入(表面にヒビが入り、そこに渋等が付着して色づく)が入りますから、その色具合で分かります。改めて素焼きすれば元の白い肌に戻す事ができるので、やっておきましょうか。

神田／いえ。これも志野の味のうちと承知しておりますので遠慮しておきます。

加藤／その方がいいでしょうね。

神田／こちらは先生の父君である加藤卓男先生に作っていただいたラスター彩(加藤卓男氏が復元したペルシア陶芸の

技法)です。

加藤／これは人間国宝となってからの作品です。明るく華やかな色合いで、父も神田さんの好みをよく心得た上で作ったようです。ラスター彩を見ると、父がそこにいるようで懐かしい気持ちになります。ラスター彩に取り組む父の姿は、亡くなった今でも夢に出ます。

神田／素晴らしい師弟関係があったのでしょうか。

加藤／いえ、実は師弟という意識は私には希薄なのです。父がラスター彩の研究を始めたのは昭和35年で、10年以上かけてそれなりの作品ができるようになりました。その間私は研究助手のような立場にいましたから、大学教授と学生のような、そういった意識の方が強くて。

神田／幸兵衛先生と初めてお会いしたのは一宮市長になる前でしたが、市長になってからは卓男先生とも何度かお会いしました。江崎 鉄磨さん(現・衆議院議員)も一緒になるなどして。

加藤／オイルショックの時、当時国会議員として自民党や政府の要職を歴任した江崎 真澄さん(江崎鉄磨氏の父)が原油調達の依頼にイランを訪れることになり、土産物として父のラスター彩を持参したことがありました。やりとりの間に入ったのが私と鉄磨さんでした。

神田／それから年を追うごとに幸兵衛先生との関係は深まりました。最近では東海イラン友好協会の設立に際し、先生に請われて私が会長を務めることになりました。名古屋で食事をご一緒したり、京都をご案内いただいたこともあります。

加藤／京都は祇園ももちろん魅力的なのですが、私は骨董市を徘徊するのが好きで。

神田／そうですね。でも初めのうち私は、骨董商とどう接していいのか分からずとまどいました。

加藤／慣れてくると、その駆け引きが面白いのですよ。骨董を売る側の方に聞いたことがあるのですが、客が冷やかしか、買う気があるのかは、犬が尻尾を振って

幸兵衛黨当主  
(社)日本新工芸科連盟理事相談役・審査員  
(社)美濃陶芸協会前会長、市之倉さかづき美術館館長

### 七代 加藤 幸兵衛

1945年 幸兵衛黨六代 加藤卓男(後に人間国宝)の子息として  
岐阜県多治見市生まれ。

1967年「朝日陶芸賞」で最高賞を受賞。

1969年「日展」で特選北斗賞を受賞。(1981年にも受賞)

1987年 日展審査員。

1995年「七代 加藤幸兵衛」を襲名。「日本新工芸展」で文部大臣賞を受賞。

2006年 父の逝去に伴い、父のライフワークであったペルシア陶技の継承を決意し、日展を退会。





加藤幸兵衛作「志野」

いるかのように分かるそうです。買う気がある客なら、それほど値引くことなく強気で交渉できます。ですから買う側としては、欲しい気持ちをいかに悟られないようにして値切るかが腕の見せどころです。

## 茶処愛知の血がさせた？

### 農作業中の野点と

### 美濃焼・瀬戸焼の原点

神田／私が焼き物好きになったのは、まだ弁護士になったばかりの頃です。クライアントに陶磁器店があって、そこに出入りするうちに、ぐい呑くらいなら私でも買えるぞと気づき、集め始めたのがきっかけ。愛知県には六古窯のうち二つ、瀬戸と常滑があることだし、いい趣味じゃないかと思ったのですね。その店で買った中には、卓男先生のとても若い頃のぐい呑もあった記憶があります。

加藤／名古屋駅近くにあった店ですね。

神田／私が生まれ育った尾張地方は昔からお茶が生活の一部になっていて、農作業のときなど田んぼの畦道で抹茶を点てる風景もよく見られました。そんな幼少期の体験も下地になっていたのだと思います。

加藤／究極の野点です。素晴らしい。

神田／また父もそうでしたが、私も子供の頃から絵を描くのが好きでした。茶も絵も陶器集めもまったくの自己流なのですが、それが私の芸術の原点になります。愛知芸術文化センター総長の仕事は、願ってもないことと思っています。

加藤／誰よりもふさわしい方が総長に就任されたわけですね。茶の湯は今もやられているのですか。

神田／妻は熱心ですが、私は作法はからきしダメで、出てきたら一気飲みするだけです。



愛知芸術文化センター総長  
愛知県国際交流協会会長

## 神田 真秋

1951年 愛知県一宮市生まれ。  
1973年 大学在学中に司法試験合格。  
1974年 中央大学法学部卒業。  
1976年 名古屋市に事務所を構え弁護士活動開始。  
1989年 一宮市長に当選。3期10年務める。  
1999年 愛知県知事に当選。セントレア開港、愛・地球博開催、あいちトリエンナーレ開催等に尽力。3期12年務めた後、次選不出馬を表明し勇退。  
2011年 愛知芸術文化センター総長に就任。  
2016年 東海イラン友好協会会長に就任。

## 「茶も絵も陶器集めも まったくの自己流なのですが、 それが私の芸術の原点」

加藤／抹茶は健康にも良いですから、それでも続けてください。

神田／思えば愛知県は焼き物に加えて、茶、茶菓子とすべての名産地なわけで、茶の湯好きには絶好の立地です。岐阜県的美濃も焼き物産地として、とても有名です。

加藤／瀬戸だ美濃だと言いますが、我々作家にとっては県境は無きに等しいものです。峠を挟んで南北に位置する街で、原材料や調達ルートは常に一体ですから。研究でも六古窯の瀬戸には美濃も含まれていたことが分かっています。

神田／それまで瀬戸で焼かれたと思われていた古志野が、実は美濃の作だと発見したのは荒川豊蔵先生ですが、そんな背景もあったのですね。

加藤／そもそも志野という呼称が付けられ



左：加藤卓男作「ラスター」

右：加藤幸兵衛作「三彩」

たのは江戸中期のことで、それ以前は白瀬戸と呼ばれていましたから。黄瀬戸、瀬戸黒と同様にすべて瀬戸・美濃共通の技法だったのかもしれませんが。

神田／ところでぐい呑なのですが、360度どこから見ても絵になります。こういう造形は難しいのでしょうか。

加藤／しかも手に収めた時の「たなごころ」や、唇に触れた時の感覚まで追求しなければなりません。観賞用ならいざ知らず、ぐい呑は実用品ですので、良いものを作るハードルは高いです。

## 技術を出さない作家 アンリ・マチスへの 愛は2人に共通

神田／絵は今でも自分で描いていて、描くたびにプロはすごいなと最後には納得させられます。それでも下手なりに楽しんで描いています。県内の公募展に出展したこともあります。でも焼き物は、こんなに好きなのに、自分で作ろうとは思えません。

加藤／賢明な判断です(笑)焼き物は技術のある人でなければ良いものは作れません。けれども我々プロが理想とするのは、素人さんが感覚だけで作ったような体裁でもあるのです。技術ばかりが前に出過ぎては芸術じゃない、技術を持ちながらいかに隠すかに真骨頂があるような。

神田／なるほど。私の持つ志野のぐい呑も、そんな一瞬の感覚で作られたのでしょうか。

加藤／そういう面はあると思います。その志野の絵付はたぶん土筆だと思いましたが、今となっては自分でもよく分かりません。感覚で描くという点で、私が最も尊敬している芸術家はアンリ・マチス(20世紀前半のフランス人画家)です。

神田／ええ!それは偶然だ。私もマチスは海外の画家で最も好きな1人です。

加藤／マチスは高い技術を持っているのに、それを表に出しませんよね。「色彩の魔術師」とも言われますが、理屈じゃなくその瞬間の判断で色を選んでいます。

神田／マチスはブルーも赤も彼だけの色彩で素晴らしい。

加藤／学んで身につく色彩感覚じゃありません。

## PC社会が横の文化なら 芸術世界は人それぞれに 異なる縦の文化

神田／私は常々、若い人にもっと芸術に関心を持ってもらいたいと主張しています。でもそれを若い人に語っても、なかなか伝わらなくて。最近になってようやく「エ



「待つ」アンリ・マチス



「青衣の少女」藤田嗣治



「宇治川」杉本健吉

(いずれも愛知県美術館蔵)

## 「愛知大学さんにも、芸術を育む 土着の風土はきっとあるのでしょう」

### 愛知大学や愛知県の 土着性が生み出した芸術家たち

神田／愛知大学さんにも、芸術を育む土着の風土はきっとあるのでしょう。平松礼二さん(日本画家)や東松照明さん(写真家)といった素晴らしい芸術家を輩出しておられる。

加藤／平松さんは華やかな色彩でありながら、いかにも土着的な絵を描く方ですね。東松さんはあまり詳しくはないのですが。

神田／東松さんの写真は愛知県美術館でも200点ほど収蔵しているのですが、沖縄や瀬戸など、いかにも土着の風景といったモチーフのモノクロ写真が主となります。

加藤／愛知大学に限らずですが、三河にルーツを持つ作家さんにはユニークな方が多いですね。平川敏夫さん(日本画家)ですとか。

神田／他に日本人芸術家だと誰がお好きですか。

加藤／画家ならレオナルド・フジタ(藤田嗣治)さん、須田剋太さん、杉本健吉さん。須田さんと杉本さんは個性的で自在に筆を動かしているところが似通っていると思います。杉本さんは吉川英治が朝日新聞に連載していた平家物語の挿絵を描かれていて、当時は毎回楽しみにしていました。

神田／杉本さんは名古屋市出身です。知事時代には愛・地球博の成功を応援していただきました。愛・地球博開催の9月にご自分が99歳なので、それまでに幡(ばん。仏教祭祀に使われる布飾り)を99枚作って、ご自分も「幡白」(ばんぱく)を目指すとおっ

リートは芸術を嗜むべきだ」とか「一流になるには芸術の素養が必要だ」などと書物でも紹介されるようになり、小さな追い風を感じています。現代は先行きが不透明な、答えのない時代です。だからこそ、理屈ではなく感覚を大切にする芸術が役立つはず。ですから愛知芸術文化センターでも子供相手のワークショップ等を積極的に展開しています。

加藤／小学生1人に1台パソコンを持たせる時代だそうですが、それだけでいいのかなと思います。パソコンが実現するのは世界中が画一的な価値観。横にフラットな文化です。それは個性や地域性、民族性といったものの喪失というリスクを内包しています。

神田／地域に根ざした歴史、文化そして芸術は大切です。

加藤／人それぞれに目に見えない根っこを持っています。そういう縦の文化は絶対消してはいけないと思います。

神田／人間は足元を忘れがちですが、それを忘れては本物は生まれません。

加藤／マチスやピカソもそう、世界中の芸術家はみな自分だけの基盤を持っています。かつて父がシベリウス(19~20世紀のフィンランド人音楽家)の小さな銅像を大切にしていたのですが、シベリウスはフィンランドでこそよく似合います。

神田／私も卓男先生の著作で読みました。フィンランドで居酒屋に入ると、必ずBGMはシベリウスだと。

加藤／現地に行けば、その必然性が実感できます。

しゃっていました。

加藤／今さらこんな言い方はしたくないのですね。杉本さんはまさに「ヘタウマ」の人でしたね。ピカソは「アーティストは子供に近づくべき」、世阿弥は「下手は上手の手本なり」という名言を残していますが、その1人でした。

神田／数年前にピカソ展を開催したのですが、若い頃の作品を見ると恐ろしくデッサン力が高い。それがキュビズムという境地に達したことが興味深い。ピカソは陶磁器の絵付けもやっているようですね。

加藤／彼には陶芸の技術はありませんから、感覚だけで絵付けをしています。だからこそ我々にはできない表現ができる。参考になります。

神田／常人では達し得ない天才です。

加藤／フジタさんは、また少し画風が異なります。

神田／洋画家なのに、日本の面相筆を使っていて凄いと思います。西洋人にはまねのできないワザですね。

加藤／よく見ると線に抑揚があります。

神田／先生とは趣味が合いますね。

加藤／ええ。事前に打ち合わせしたわけでもないのに(笑)

して絵付けしたのだと思います。

神田／先程は懐かしいと言われましたが、他に感想はありますか。

加藤／生前の言葉を思い出します。職業軍人として大陸に赴任していた時「鉄砲ではなく筆ばかり持ってスケッチしていた」とか。学生時代は日本画を専攻していたもので。そのせいもあってか「美術学校は木炭や鉛筆でばかりデッサンさせるが、あんな硬い線では日本人の心は表せない。筆じゃない」とも言っていました。フジタさんの画風はたぶん父好み。逆に私は硬い線で学んできた派です。

神田／日本にとって地球の裏側に近いような場所で、数百年も前に失われた技法で、その復元など成功するかどうか未知数だったと思いますが、よくラスター彩に挑戦できましたね。感服します。

加藤／その点では父は五代目、つまり私の祖父に感謝していました。軍人として働き、被爆の後遺症で10年間闘病生活を続け、父が本格的に陶芸を始めたのはその後。本来なら家業を継ぐことに執心しなくてはいけなかった頃に約20年間、毎年イランまで研究に行けたのはひとえに五代目の後押しあってこそだと。

神田／最後に、各々の立場での今後の目標を語っておきたいと思います。まず私から。愛知芸術文化センターは愛知県に

おける芸術の殿堂であり発信拠点と考えていますから、本物の芸術をジャンル問わずしっかりと見せていきたい。特に若い人に向けて。また愛知県には私の知る限りでも公立、民間を問わず50以上の美術館・博物館がありますから、それらと横の連携を密にして、地域に裾野を広めたい。これらは総長としての私の使命と思っています。個人的には焼き物の絵付けくらいはできるように、先生にご指導ご協力をお願いしたいと思います。

加藤／喜んで。ピカソのような良い絵付けをしてください。さて私は芸術、哲学、時には宗教まで含めた人間の心の産物と、その価値を世に伝えていきたいと考えます。合理性ばかりが発展した日本では、心の遊びがなくなり、発想力がギスギスしたものになりがちですから。先にも話したように、1人1人異なる基盤やアイデンティティを振り返ることの大切さも主張していきたいです。そして神田さんにもご協力いただき、ラスター彩を再びイランの地に根付かせることに力を注ぎたい。もちろん自分の作陶も追求しながら。

神田／親子2代にわたりラスター彩に取り組み、その成果を惜しげもなくイランに伝授している。これ以上の国際交流はありません。お忙しい中、本日はありがとうございます。

加藤／ありがとうございました。

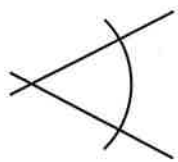
## 親子2代で取り組む ラスター彩こそ最高の国際交流

神田／卓男先生の話をもう少しさせてください。私が持つラスター彩の絵付けなのですが、これはペルシアの伝統的な模様や風景をベースにしているのですか。

加藤／そうなのですが、どちらかというと東洋的ですね。ラスター彩が全盛だった12～14世紀のペルシアはセルジューク・トルコの支配下であって、これは中央アジアにルーツを持つ民族の国家だったのです。ですから古いラスター彩に描かれる人物は黒髪・黒目を連想させるものばかり。現代イラン人とは違います。父もそこを意識

## 「芸術、哲学、時には宗教まで含めた 人間の心の産物と、その価値を伝えたい」





Professional Eye



featuring

## 宗次ホール 代表 宗次 徳二

壮絶な幼少期、そして成功。  
すべては社会への恩返しのために。

名古屋市中区役所から少し東、広小路通近くにある宗次ホールでは、今日も看板イベントのランチタイムコンサートが開催されようとしていた。正面玄関には、来場される多くのお客様一人ひとりに笑顔で「いらっしゃいませ」と挨拶し、丁寧に頭を下げる男性が立っていた。宗次ホールのオーナー、宗次徳二さんだ。誰もが

むねつぐ とくじ

石川県生まれ。高校卒業後、不動産業を経て1974年、喫茶店「バックス」開業。1978年にカレーハウスCoCo壱番屋を創業。2002年に経営を退き、2003年にNPO法人イエロー・エンジェルを設立、理事長に就任。2007年にクラシック音楽専用の「宗次ホール」を名古屋市内にオープン。著書に『日本一の変人経営者』（ダイヤモンド社）など多数。

知る世界一のカレーチェーン、カレーハウスCoCo壱番屋を創業した後、2002年に経営を後継者に託し翌年にNPO法人イエロー・エンジェルを設立。2007年には28億円もの私財を投じ、クラシック音楽専用の宗次ホールをオープンさせる。異例ともいえる53歳という若さでの引退に、周囲は皆驚いたという。「一番の理由は、ココイチの経営を自分なりにやり切ったという実感があったからですね」。経営に心血を注ぎ、生活のすべてを捧げてきた宗次さんの手元に残ったのは、莫大な金額が記された預金通帳だった。「このお金どうしようか」二人三脚で歩んできた妻直美さんと話し、結論はあっさりとした。「ここまで来れたのも、多くの方々の助けがあったからこそ。このお金は自分たち

# クラシック音楽を通じ、 社会に恩返しをしたい。



宗次ホール外観

のものではない。一時預かりとして、社会にお返ししよう」。理事長を務めるNPO法人では、児童養護施設や困窮する学生への支援をはじめ多数の公益法人やNPO団体に多大な支援を続けている。「社会貢献をやろうと決めた背景には、自分の生い立ちが関係しているのかもしれませんが。実は私、両親の顔を知らないんです」。生後間もなく孤児院に預けられ、3歳のとき雑貨商を営む養父母に引き取られるも養父のギャンブル癖のために生活は困窮し、養母は失踪。中学を卒業するまでは電気や水道のない生活を送り、家賃が払えず廃屋を転々としながら、ときには雑草を食べて飢えをしのいだこともあるという。そんな壮絶な幼少期を語る宗次さんから出てきたのは、驚きの言葉だった。「お金には大変苦労しましたが、こうして無事大人になることができました。産んでくれた両親も含め、養父母には今でも本当に感謝しています」。そんなどん底の生活の中、宗次さんは生き抜く強さを身につけ、同時に将来の仕事に通ずるマインドをも培っていく。「パチンコ屋に連れて行かれたとき、

養父が床に落ちていたタバコを美味そうに吸うのを見ましてね。それから暇を見つけてはパチンコ屋でシケモクを集め、日雇い仕事から帰った養父に渡していました。うれしそうにそれを吸って、すごく喜んでくれたんですよ。『目の前のお客様に喜んでもらいたい』という気持ちの原点はそこにあるような気がします」。

目標はステーキではなくカレーライス。  
クラシックの素晴らしさを  
もっと多くの人に。

15歳で養父が死去し、再び養母と暮らし始めた16歳の宗次少年に、運命的な出会いが訪れる。アルバイト代をコツコツと貯めたお金でクラスメイトから中古のテープレコーダーを譲り受け、たまたま放映していた「N響アワー」を録音。そこから流れてきたメンデルスゾーンのバイオリン協奏曲に心が震えるほどの感動

を覚えた。「クラシックを聴くと穏やかでやさしい気持ちになれるんです。私はクラシックコンサートに足を運ぶ人の中に、人を騙したり凶悪なことを企む人はいないと確信しています。心やさしい人が増えれば、社会全体がもっとやさしくなれるはずです」。この出会いが「もっと身近に、もっと人々の生活の中にクラシック音楽を」という宗次ホールの理念の礎となり、クラシックを通じた社会貢献へとつながっていった。宗次ホールの大きな目的は2つある。まず、より多くの人にクラシックの素晴らしさを届けること。そしてまだ無名の実力ある演奏家に出演の機会を提供すること。連日多くのお客様で賑わうランチタイム名曲コンサートの入場料は、たったの1,000円。近隣のホテルとタイアップし、クラシックコンサートと有名料理店のランチが楽しめるランチコンサートは2,000～3,000円台という破格の料金設定となっている。ほかに、コンサート後に高級店のケーキが味わえるスイーツタイムコンサートもお値打ち価格でラインアップ。「たまにお客様から『食事代は？コンサート代は？』と聞かれることもあります（笑）。まだまだクラシックは敷居が高いと感じていらっしゃる方が多く、食事に例えるなら少しぜいたくなステーキといったところでしょうか。私はそれを毎日食べても飽きないカレーライスにしたいんです」。安価といえど、接客や音響には徹底的にこだわるのが宗次流。音響拡散体や残響可変幕などをしつらえ、演奏者とお客様が一体となり感動をより味わえるような設計とし、お出迎え・お見送りにはオーナー自らが玄関に立つという徹底ぶり。当初年間2万人弱だった来場者は約8万人に増え、400回近いコンサート開催数は全国でも随一だ。また宗次さんはストラディバリウスをはじめとする名器を多数所有しており、三浦文彰さん・神尾真由子さん・宮本笑里さんといった若手の演奏家たちを中心に無償貸与を行っている。さらに「青少年に楽器を贈る運動」として260校もの学校へ総額7億8,000万円（金額は2018年時点）の楽器提供も行う。これまで一貫して「人に喜んでほしい」、ただそれだけを胸に刻み仕事にすべてを捧げてきた宗次さん。不遇な少年期の光明となったクラシック音楽を通じて人のために何かをしたいという想いの大きさを、これらの足跡が如実に物語っている。

## 数々の奇跡を生んだ宗次マインド。 ただ実直に、心を込めて感謝を。

宗次さんの1日は多忙だ。毎朝4時前に起床し、上下のジャージにキャップをかぶり、カートにゴミ箱や花の苗を積んでホールを出発。



テレビ愛知と宗次ホールの共同企画として結成されたコーラスユニット「CoCoRoni(ココロニ)」さんと宗次オーナー。(左写真)



舞台袖へのスロープには、次世代を担う若き才能のために無償で貸与されている「宗次コレクション」の一部(写真)が展示されている。

1時間半かけてホール周辺や付近の道路を掃除し雑草を抜き、花を植え水やりをするのが日課だ。嵐の日も雪の日も、出張日以外は毎日やるという。さらに隣接する広小路通の中央分離帯、413mにわたって植えられている黄色の花も、宗次さんが自ら植えたというから驚きだ。「最初は雑草を抜くだけだったんですが、寂しかったので花を植えようと思いましてね」。今では賛同者も増え、数人の仲間とともに清掃や花の維持管理をしている。開演前には玄関でお客様を出迎え、一緒にクラシックを堪能した後はお客様を見送り、月7回前後スタッフの昼食も作る。何が宗次さんをここまで働き動かすのだろうか。「ぜんぶ好きだからやっているんです。だから掃除も花の手入れもイヤだなと思ったことは一度もありません。休みもありません。自分の好きなことをさせてもらえて、毎日が本当に価値ある日々。休むなんてもったいなくて。だから周りからは『変人』なんて呼ばれたりします（笑）」。7,800円の時計や980円のシャツを身につけ、食品スーパー、ホームセンター、100円ショップでの買い物はストレス解消だと語る。「自分へのぜいたくは恥ずかしくてできないんです。私にとって究極のぜいたくは人のためにお金を使うこと」。少年期を振り返った宗次さんの言葉が胸に刺さる。「すごく孤独な人生でした。だから少しでも他人から関心や興味を持ってもらいたかった。それが私の原点。だから、商売を始めて、お金を儲けたいと思ったことはありませんでした。ただ人に喜んでもらいたかったんです。少しでも自分がいて良かったと言ってもらいたかった」。宗次さんを牽引してきた力の根底にあるのは「感謝」に他ならない。



### column

#### 愛知大学で「キャンパス・de・クラシック」を開催

2019年10月、宗次ホールに全面的なご協力をいただき、名古屋キャンパスグローバルコンベンションホールにおいて弦楽四重奏コンサート「キャンパス de クラシック」を開催。なつかるテツさんが奏でる豊かな弦の響きに感動の声が上がり、学生からも大きな反響が寄せられた。2020年も地域の方々にも公開し開催する予定。

# AERSの一年

(アース)

明日の地域社会に貢献する人材を育成する  
愛知大学教育研究支援財団(愛称<sup>アース</sup>AERS)の一年を振り返りました。

〔<sup>アース</sup>AERSとは:AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION(愛知大学教育研究支援財団)の  
頭文字を合わせた愛称です。<sup>アース</sup>AERSは、より良い明日(アース)に向かおうと言う思いも込められています。〕



## 海外活動の支援

### グローバル活動

#### ■ 2回目「海外(タイ・チェンマイ)ボランティアプログラム」を実施して

名古屋学生課(兼ボランティアセンター)  
岩田 正人

2019年夏に、「海外ボランティアプログラム」を実施し、タイ・チェンマイを訪れました。同プログラムは、2018年に引き続き、2回目となり、その目的は、現地孤児院を訪問し、様々な理由により、親のいない子供たちと、全力で遊び、愛情を伝えることにあります。実施初年度となる昨年は、募集定員26名に対し54名、今年にいたっては、総勢106名の学生から申込みがあり、結果として、募集定員を増やし、合計59名の学生が、前半と後半の2回に分かれ(8/4~12、8/19~27)、参加しました。申込みが急激に増えた理由の一つとしては、大学生とボランティアの親和性が圧倒的に高まり、また、大学が主催することで、これまでは、自分とは全く無関係のことと思っていた遠い世界の出来事が、急に身近に感じられたことにあるようにと思います。学生のボランティアに

対する関心は、今後、ますます高まっていくと思います。学生には、この経験を活かし、世界の抱える諸問題に対して、他人事として無関心でいるのではなく、自分事として問題解決に関わってほしい、そうすることにより、ボランティアのみならず、今後社会で待ち受けるであろう、幾多の「壁」を自らの力で乗り越えることができるかと信じています。



#### ■ 「海外(タイ・チェンマイ)ボランティアプログラム」に参加して

国際コミュニケーション学部3年(2019年度時)  
岡田 陽花

カサロンの家(孤児院)では普通の観光では決してできないたくさんの貴重な経験をすることができました。子供達も人なつっこくて優しい子が多く、とても癒やされました。言葉が違って、こんなに楽しく一緒に過ごせるんだなと感じました。

子供達との遊びで一番印象深いのは水風船です。みんな水風船が大好きで、私達も一緒に楽しむことができました。

一番心配していた食事は、おいしいものばかりでした。タイ風チャーハンとスープ、パッタイ(タイ風やきそば)やタイ風のおかゆ、エノキの揚げ物など食べやすいものばかりでした。さらに、普段体験できない蜂の子とコオロギの揚げ物を食べることができて嬉しかったです。案外食べやすく、びっくりしたのを覚えています。

カサロンの家は、お風呂にシャワーヘッドがあり、トイレも洋式で使いやすかったです。しかし、足がダニに刺されていたのと、早朝3時頃に鶏が鳴くため絶対に目が覚めます。けれども、今

思い返してみれば、どれも日本で体験することができない貴重な経験ばかりだったように思います。

最終日には、お別れ会をしました。一緒にゲームをしたり、子供達の出し物を見たり、私達が歌を歌ったりしました。このとき急に、子供達と別れるのが悲しくなりました。同時に、心からこのボランティアに参加して良かったとも思いました。カサロンの家の子供達は、幼いながらに自分達の民族の歌やダンスをしっかりと覚えていて、感心しました。ボランティア活動をしに行ったはずなのですが、たくさん学ぶことがある4日間でした。





## 海外活動の支援

### 愛知大学緑の協力隊・ポプラの森

第16次隊長 国際コミュニケーション学部長  
加納 寛

美しい沙丘において、21名の隊員が一心となって取り組んだ植樹作業…充実感に満ちた楽しい日々でした!

愛知大学は、1995年から毎年、中国の内蒙古自治区に広がるクブチ沙漠において、日本沙漠緑化実践協会が主催する沙漠緑化活動に参加し、2018年までに25回、のべ772名の植林ボランティアを派遣してきました。植林実績は、ポプラ19,295本に及びます。我々愛知大学緑の協力隊「ポプラの森」第16次隊21名は、実質2日間で540本のポプラを植林し、無事にその任務を果たして帰国しました。隊長としては安全管理を第一優先課題としましたが、隊員各位の高い意識と協調的姿勢により、相互協力の態勢が早い段階で構築され、安全に任務を遂行できました。

植樹自体は、1mの深さの穴を掘って苗木を植え、根固めしながら埋め戻す作業ですが、我々が行わせていただいた作業は、あくまで緑化の「体験」に留まるものであったのは事実です。実際には、我々の「体験」の裏に、日本沙漠緑化実践協会のスタッフや現地の方々による苗の準備や、小まめかつ大量の散水、

キッチリとした砂留など、気が遠くなるような労力が存在しているわけで、それらの作業を担当した方々には厚く感謝を申し上げる次第です。

休憩時には、歴代の愛大植樹隊が活動した跡も見てきました。先輩方の植樹されたポプラは、確実に成長し、砂の飛散を留めています。我々が植樹した地域を含め、それらは沙漠全体の面積に比べれば微々たるものに過ぎません。しかし、こうした文字通り「地道」な作業こそが、いつかは沙漠の環境を変えるのであり、我々の作業も「あまだれ、石を穿つ」という格言における「あまだれ」の一部として、沙漠緑化にわずかながら貢献したと言ってよいでしょう。今後も、愛知大学において本事業が末永く継承され、我々愛知大学が地球環境の改善に少しずつでも貢献していけることを祈念しております。



### 現地インターンシップの実施について

現地インターンシップは、現代中国学部が実施する3年次生を対象とした、中国の現地日系企業・団体で2週間、インターンシップを行うプログラムです。現地日系企業等の受入担当者から直接指導を受け、中国ビジネスの実態を感得するとともに、中国市場の実情、日中文化の相違などについて体験的に理解できる貴重な機会となっています。

参加学生は、3年次の4月からは正課科目以外に、課外の各種講座を受講し、インターンシップへの態勢を整え、夏季休暇中の8月に、北京と上海に分かれて2週間(実働10日間)、企業・団体などの現場でインターンシップを行います。2019年度(第16回)は、2019年8月17日～9月1日の日程で、20名(女子17名、男子3名)の学生が、北京、上海の現地日系企業等でインターンシップを行い、北京8社、上海10社の企業・団体の皆様の多大なご理解、ご協力により、成功裡に終えることができました。

帰国後は、事後学習を経て12月6日名古屋キャンパスにおいて、愛知大学教育研究支援財団の加藤満憲理事長出席のもと成果報告会を開催しました。

現地インターンシップは、2005年度からスタートし、2019年度の実施で、15年目(第16回目)を迎えました。第1回の実施から数え、この15年間で、現地インターンシップに参加した学生は計362名(※1)、学生受入に協力いただいた企業・団体数は64社(※1)に及びます。この間、現地インターンシップを含む現代中国学部の教学活動が、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」(2007年度～2009年度)や「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(特色型)」(2012年度～2016年度)に採択され、社会的にも高い評価を得ています。

[参考]2019年度(第16回)現地インターンシップ  
実施企業・団体一覧(順不同)

#### 北京

井村屋(北京)企業管理有限公司  
北京新日国際旅行社有限公司  
独立行政法人国際交流基金北京日本文化センター  
交通公社新紀元国際旅行社有限公司  
北京薩莉亞餐飲管理有限公司  
全日空航空公司北京支店  
北京陸愛科技有限公司  
独立行政法人日本貿易振興機構北京事務所

#### 上海

寧波依森紙製品有限公司  
上海凸版利豐廣告有限公司  
丸全昭和(広州)物流有限公司上海分公司  
中日新聞上海支局  
北京新日国際旅行社有限公司上海分社  
東急商務諮詢(上海)有限公司  
NTT通信系統(中国)有限公司  
独立行政法人日本貿易振興機構上海事務所  
欧士机(上海)精密工具有限公司  
日旅国際旅行社有限公司

#### 天津

日本航空公司天津支店(※2)

※2 中国長期派遣留学生対象の中国留学インターンシップとして実施

※1 外国人留学生対象の国内(愛知)インターンシップ及び中国長期派遣留学生対象の中国留学インターンシップを含む



## 海外活動の支援

### 中国現地インターンシップに学んだこと

現代中国学部 3年(2019年度時)  
横山 京佳

「絶対にこのプログラムに参加する!」私は、入学当時からこのプログラムへの参加を強く志望していました。試験を乗り越え、最終面接は12月20日に行われました。面接日は今でも鮮明に覚えています。なぜならその日はちょうど私の20歳の誕生日で、自分へのプレゼントになるよう面接では精一杯自分の思いを伝えたからです。そして、見事、参加資格を得ることができ、研修に向けてチームのみんなで事前学習に取り組みしました。

そして待ちに待った中国北京でのインターンシップ。私がお世話になったのは北京薩莉亜餐飲管理有限公司(株式会社サイゼリアの中国現地法人)です。初日、私は緊張のあまり名刺を渡す事を忘れてしまいました。次の日、気を取り直し名刺交換しました。“相手の名刺より下に、自分の名刺を差し出す”事前学習での知識がさっそく役に立ちました。2週間という短い期間で、天津視察、店長会議出席、物流倉庫視察、鶏肉工場視察、設備保全巡回、店舗勤務など、毎日違った内容の研修をさせていただきました。この活動を通して多くの人と出会い、多くの人と話をすることが出来ました。

「英語、中国語を使って困っている人、世界の人々を助けたい」という夢を持つ私にとって、これらの出会いはかけがえのない学びを与えてくれました。

その中で大きな学びが3つあります。

一つ目は、総経理から学んだ「負けたくないというモチベーションの大切さ」

二つ目は、23歳の北京サイゼリア副店長から学んだ「好きなことをする。好きだから頑張れる。好きな事をするための覚悟の大切さ」

三つ目は、2週間共に生活をしてくれた3人の同期から学んだ「自分の意思を相手に伝える事の大切さ」

この学びを大切に、今後は、数多くいる高レベルな語学習得者に負けないよう、そして語学学習を怠けようとする自分に負けないように「帰国子女並みに流暢な言語を身に付ける」というモチベーションを持ち続けます。さらに、好きなことをするために、困難な挑戦にも立ち向かう覚悟をし、自分の意見はきちんと人に伝えて同じ志を持つ仲間と成長していき、必ず自分の夢を叶えます。

こんなにも自分の思いを強く持てるようになったのは、現地インターンシップのおかげです。そのインターンシップを支えていただいた受入先企業の皆様、担当の先生方、国際交流課の皆様、愛知大学教育研究支援財団様に感謝します。そして16期生の仲間に感謝します。ありがとうございました。



成果報告会における加藤理事長挨拶



## Column

### 「私学法改正で変わる監事監査の実務」

2020年4月から施行された改正私立学校法で、学校法人にも上場企業並みのガバナンスを求められ、監事機能の強化が図られたことを受け、学校法人関係者の意識改革につながればと、本財団の酒井常務理事、学校法人愛知大学林監事が編集に関わった「私学法改正で変わる監事監査の実務」(定価2,000円+税)が出版されました。ご活用を願っております。

購入等お問合せ: 特別非営利活動法人 学校経理研究会 (<http://keiriken.net>.)





## 学術講演会等「知のミーティング」助成事業

### ドキュメンタリー映画「おっさんずルネッサンス」が完成するまで

ドキュメンタリー映画「おっさんずルネッサンス」監督 高野 史枝(愛知大学法経学部経済学科 昭和47年卒)

遅い映画監督デビューですが・・・

昨年(2019年)12月半ばに、ドキュメンタリー映画「おっさんずルネッサンス」という作品が完成し、1月からおよそ1ヶ月の劇場上映が終わりました。私が監督した2本目の映画です。1本目の映画を作ったのは2015年。あまり大きな声では言えませんが、その時60代。それから4年後の2本目製作で、まあ、とんでもなく遅い監督デビューです。映画監督というのは、正直言って体力勝負という所がありますので、「体力・気力が尽きるまでに、2本の映画を作れてよかった〜」というのが実感です。

#### 映画監督になるまでの道のり

愛知大学卒業後、出版社で20年近く働いたのち、フリーランスのライターとして独立しました。映画やテレビドラマの脚本家を目指していましたが、なかなかそんなチャンス(才能というべきかも・・・)に恵まれず、雑誌のグルメライターや特集記事の記者、ラジオやテレビ番組の構成やパーソナリティーなど、ずっとマスコミで仕事を続けて来ました。徐々に映画評論や映画監督との対談などの仕事が増え、女性監督が多くなったこと、映画の機材が進歩したなどで、映画製作というものが身近に感じられるようになり、「もしかしたら私にも映画を作ることが出来るのでは・・・」という「野望」が生まれました。男性たちが次々に料理を作るドキュメンタリー映画、「厨房男子」と

いう第1作を完成、全国7ヶ所の劇場上映をしましたが、自主製作は資金も製作も配給もすべて自分持ちです。文字通り精も根も尽き果てる思いをしました。

#### それなのに、なぜ第2作を・・・?

私は愛知県大府市の施設、「ミューいしがせ」にある「メンズカレッジ」という男性講座の講師を10年以上続けています。平均年齢75歳のその講座生たちは、定年後の人生をいかにも生き生きと楽しそうに過ごしていました。「その笑顔をスクリーンに映したい」という気持ちと、「彼らのように、定年後の人生を幸せに過ごすコツをスクリーンで伝えることが出来たら・・・」という思いが募り、とうとう2019年春から第2作目を撮り始めてしまいました。撮りたいテーマさえはっきりしていれば、監督の仕事の半分は資金集め、残りの半分が雑用です(撮影とか編集とか音楽などの部分はプロに依頼しますので)。ただ、あらゆることの元締めなのでトテツもなく忙しい!今回も1年間をコマネズミのように働き、何とか完成にこぎつけました。

#### ご支援をありがとうございました

さすがに「もう映画監督はこれでおしまい!」と思うものの、「次はどんなテーマで作りたいの?」なんて聞かれるとムズムズしてしまいます。困ったものです(笑)。

公益財団法人愛知大学教育研究支援

財団から助成金を頂き、映画のエンドロールに愛大と財団のロゴを載せることが出来ました。「愛知大学はいつまでたっても卒業生の応援をしてくださるんだな・・・」と、嬉しく誇らしい気持ちです。末尾になりましたが、心よりお礼申し上げます。



大府市・岡村市長 撮影中

## Column

### 「愛知大学学生歌」カラオケ配信開始

愛知大学同窓生が集まれば必ずと言っていいほど歌っている「愛知大学学生歌」がなんと、DAMチャンネルによりカラオケ配信(選曲No.2595-32)がされるようになりました。

・・・♪日本の新しき朝の光は、二つなき心理のもとに明け放れたり・・・カラオケの機会がありましたら、是非チャレンジしてみてください。



## 教育活動の支援

### 大学間協定4大学合同国際シンポジウムを開催 国際問題研究所長 佐藤 元彦

主催：愛知大学(国際問題研究所)、  
厦門大学、東呉大学、金門大学  
日時：2019年11月16日午後  
場所：名古屋キャンパス

愛知大学で最も古い歴史を持つ研究機関である国際問題研究所(1948年設置)は、中国をはじめとする地域研究、国際関係研究に多くの特色ある研究業績を積み重ねてきましたが、この度、愛知大学が大学間国際交流協定を結んでいる厦門大学、東呉大学、金門大学と合同で国際シンポジウム「東アジア文明の伝承と発展」を名古屋校舎において開催しました。これは、もともと2016年度から開始された当該テーマの国際共同研究の成果を発表する機会でしたが、2017年度は金門大学、翌18

年度は厦門大学で同様に開催された実績があり、今回は3回目となりました。ちなみに、4回目は2020年度に東呉大学で開催されることが確認されています。当該テーマに関する研究は、内外を問わずおびただしい数に及んでいますが、4大学合同という研究体制はさわめて稀であり、2大学間に終わりがちな国際学術交流が多い中で、このことには多くの注目が集まりました。当日は、厦門大学台湾研究院の劉国深教授による基調講演「ネット時代の文化伝承およびその発展」(ネット時代

における文化の「ファーストフード化」、「娯楽化」などに警鐘を鳴らし、東アジア文化の内容と表現の仕方に再考を促す内容)を皮切りに、4つの分科会で17本の研究報告がなされ、活発な議論が展開されました。その成果は、『国際問題研究所紀要』第156号(2020年秋刊行)に掲載される予定です。さらに、2020年度に予定されている4回目の国際シンポジウムの成果も含め、日本や中国、台湾での学術書の刊行も視野に入れた研究成果のとりまとめも計画しているところです。



## その他の「知のミーティング」助成事業

- ・公開講座「言語」2019
- ・公開講座「新約聖書の福音書を朗読するつとめ」
- ・比較民俗学会 第40回記念大会
- ・第4回地域研究機構シンポジウム「卒業後の“地域貢献”を考える」
- ・江蘇杯中国語スピーチコンテスト
- ・岐阜支部設立50周年記念 愛知大学知のミーティング「落語で世情を読む…」

## 寄贈品の紹介

### 「豊橋校舎大学記念館特別室の整備」、 「短期大学部60周年記念事業への寄附」等を実施

本財団では、愛知大学の施設整備等の支援を行うために、2014年度から3年間積み立てを行ってきた特定資産を活用して、2018年度は、閉場した中日劇場(名古屋市中区)の緞帳のタペストリー化や大学の名誉博士であられる平松礼二画伯の寄託作品の収蔵庫整備等を行いました。

2019年度は、豊橋校舎大学記念館2階の1室(現状倉庫)の改修整備(「展示スペース」や学生が大学の歴史を学ぶための「特別室」)に対する支援を行い、名古屋校舎でも美術品展示ができるようにイーゼル20台を寄贈しました。また、短期大学部の60周年事業として、歴史を刻むために校歌「梢の歌」の詩碑・説明パネルが豊橋校舎に設置され、財団としてその費用を寄附する等の支援を行いました。





## 教育活動の支援

### 奨学金授与式

2019年12月7日 愛知大学名古屋キャンパスで実施

名古屋キャンパス講義棟9階L903教室において、2019年度奨学金授与式を開催しました。ひとりでも多くの優秀な学生に支援の手が届き、希望ある未来を目指して勉学に励んでもらうことを願って、合計90名の学生に奨学金を授与しました。受賞者を代表して、各分野の3名から感謝の言葉や抱負が語られ、また、応援団メンバーから応援エールが贈られました。



#### 奨学金給付実績

|            |     |               |    |                  |     |
|------------|-----|---------------|----|------------------|-----|
| 一般給付奨学金    | 48名 | 法科大学院入学時給付奨学金 | 2名 | 後援会学業奨励金         | 23名 |
| 法科大学院特別奨学金 | 3名  | 知を愛する奨学金      | 5名 | 後援会私費外国人留学生給付奨学金 | 9名  |

### 法科大学院特別奨学生

2019年度入学生 小池 亜也加

本日はこのような場で挨拶をする機会をいただきとても嬉しく思います。

私が愛知大学の法科大学院に入学することを決めたのは、大学院全体で司法試験の合格を目指す体制に強く惹かれたからです。私は愛知大学法学部に通っていたため、この大学院の司法試験合格率が高いことは知っていましたが、その分講義の内容や進級認定が厳しいことも聞き、この大学院に入学していいのか、上手くやっていけるのか、不安に思っていました。



しかし、説明会に参加し、力強く熱心に説明してくださる先生方や、相談事に親身になって答えてくださる先輩方の姿を見、この大学院でなら、私も自分の夢に向かって頑張っていくことができるのではないかと思います。実際に入学してみると、想像よりもさらに講義の内容は濃くハードで、その日の復習と予習で毎日があっという間に過ぎていますが、色々な方々から温かいサポートを受け、毎日自分なりに頑張ることができていると思います。

何となく弁護士になりたいと思っていた今までとは違い、全員が本気で司法試験合格を目指している中で勉強をすることで、将来の夢でしかなかった司法試験合格を、目標として現実的にとらえることができ、とても充実しています。

まだ少し先の話ですが、着実に知識をつけ、司法試験に合格し、将来は弁護士になりたいと思っています。法律は、私たちの権利を守ることができるものですが、どのような権利が保障されているのかを知らなければ、その恩恵を受けられないことも多いものであると思います。私は、法律の知識を分かりやすく伝え、法律に詳しくない方に寄り添っていけるような、そんな弁護士になりたいと思っています。素晴らしい環境で勉強に励むことができること、そしてそれを可能にしてくれている全てに感謝して、これからも精一杯頑張っていきます。本日はありがとうございました。

### 知を愛する奨学生

地域政策学部1年(2019年度時) 塚田 貴之

この度は、「知を愛する奨学生」に採用していただき、ありがとうございます。

私は実家が遠く、実家からの通学が困難なため下宿をしながら大学生活を送っています。この奨学金は経済的な負担が大きい下宿生活の大きな支えとなっており大変感謝しています。

一人暮らしは大変なこともあります。親に頼らず自分自身で身の回りのことをこなしていく中で生活力がつくと実感しています。

入学当初は慣れない環境で不安や緊張でいっぱいでしたが、大学や周辺環境は落ち着いていてとても過ごしやすと感じました。また勉強に打ち込める環境も整っており有難いと思っています。

私が参加している地域政策学部の地域貢献事業では、市役所の方と協力して企画を行ったり、地域の住民の方と関わる機会を通して、授業とは異なる現場での実践力が身につきました。

そんな愛知大学で知識やスキルを身につけて、将来は生まれ育った地元に戻って地域に貢献できるような人物になりたいです。

来年度からは、さらに専門的な学びが出来るので、積極的にアイデアを考えたり、行動を起こしていきたいです。また資格取得にも挑戦したいと考えています。

今日を機に、より一層、勉学に励んでいきたいと思っています。





## 教育活動の支援

### 後援会私費外国人留学生給付奨学生

国際コミュニケーション学部3年(2019年度時) 郭 峻利

この度は、愛知大学教育研究支援財団「後援会私費外国人留学生給付奨学金」の給費生に採用していただき、誠にありがとうございます。この三年間のことを振り返り、時の流れの早さに驚きました。最初は授業が30%しか分からない状態から、今では授業が80%までわかるようになり、それから色々な専門知識も身につけました。日本の文化への理解を深めたのみならず、異なったバックグラウンドをもっている方々とコミュニケーションをとることができ、多様性が感じられ、視野が広がりました。私は人が適切な状況で他人の考え・価値観・意見を交わすことで成長していくと強く感じています。



奨学金を頂けることは、自らの努力が認められたと考えています。私にとって、ポジティブなエネルギーになりました。私は愛大を卒業した後で、大学院に行くつもりです。今勉強している日米文化やジェンダー問題などは、とても興味を持って取り組んでいます。これからは、自分がどういう風に日本社会で生きていくかを探します。採用していただき、経済的な負担が減り、時間的余裕を持てるようになり、勉学に専念できます。

社会に入って、立派な社会人として自立できるよう今後も一層の努力をし、日本のみならず世界で活躍する人材になりたいと考えています。私の将来の夢は、現在行っている自分の勉強を社会貢献できるレベルに持っていく、日本や多くの国の人々に役に立つことができる研究者になることです。

どこで活動することになるか未知ですが、どこにいても日中の両国が発展できる方向に進めていきます。最後に、ご支援いただいている全ての方に重ねてお礼を申し上げます。

### 「奨励賞」授与式

※新型コロナウイルス感染症拡大のため安全面を配慮し、2020年3月7日に予定していた式は中止し、栄えある賞を受賞された皆様には、別途、賞状・記念品を送付しました。

社会・文化・学術・芸術・スポーツ・社会貢献などの分野において活躍し、成果をおさめた個人及び団体に対し、その栄誉を称え、一層の励みとすることを目的に顕彰を実施しました。

|        |            |        |      |             |       |     |
|--------|------------|--------|------|-------------|-------|-----|
| 後援会奨励賞 | スポーツの部(団体) | 最優秀奨励賞 | 1団体  | マネージャーの部    | 奨励賞   | 1名  |
|        |            | 優秀奨励賞  | 6団体  | 学術・文化の部(団体) | 優秀奨励賞 | 1団体 |
|        |            | 奨励賞    | 10団体 |             | 奨励賞   | 2団体 |
|        | スポーツの部(個人) | 最優秀奨励賞 | 3名   | 学術・文化の部(個人) | 優秀奨励賞 | 4名  |
|        |            | 優秀奨励賞  | 23名  |             | 奨励賞   | 4名  |
|        |            | 奨励賞    | 38名  |             |       |     |



最優秀奨励賞(スポーツ・団体)弓道部

|        |            |                                                                                                                                                           |
|--------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 同窓会奨励賞 | 〈個人〉最優秀奨励賞 | 太田衣香氏(国際的な試合でテニスの審判員(日本人として2人目のブロンズバッジ)として活躍)、<br>金井夏美氏(テコンドーサークルを設立し、オーストラリアワールドカップで銅メダル獲得)、<br>日比野良祐氏(第74回国民体育大会 スポーツクライミング競技 成年男子ボルタリング 優勝)            |
|        | 優秀奨励賞      | 杏名和子氏(フリースクールで子ども達の社会自立支援(海と森の自然環境の中で)、<br>長坂泉氏(2019年度江蘇杯中国語スピーチコンテスト中部・東海地区大会大学生の部・中上級(スピーチ部門) 特等賞)<br>伊藤小春氏(サービス接遇検定準1級 優秀賞受賞)、長屋恋佳氏(サービス接遇検定準1級 優秀賞受賞) |
|        | 〈団体〉優秀奨励賞  | 田中ゼミ「ジョブズ」(名古屋銀行PBL企画体験型PG 最優秀賞)                                                                                                                          |
|        |            |                                                                                                                                                           |

|                    |                                       |
|--------------------|---------------------------------------|
| クラブ愛知賞<br>(社会貢献の部) | 〈団体〉名古屋市大学生消防団愛知大学分団<br>(地域の防災力向上に貢献) |
|--------------------|---------------------------------------|

|                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 同窓会資格試験<br>合格者奨励賞 | 〈司法試験〉林沙織氏、平野滋隆氏 |
|-------------------|------------------|

### キャリア教育事業助成金

愛知大学が就職支援プログラムに基づき実施する人材育成事業等を支援しました。

・OB・OG探訪記(6社訪問) ・産学官連携型キャリア育成プログラム『Learning+』(5つのクラス)

### その他海外研究実習助成、教育活動助成、課外活動特別奨励などの事業を実施

学生が海外を訪問し、社会の実情を研究する海外フィールドワークや、各種の研究会や大会へ参加する経費の助成などを実施しています。

# 寄附金名簿

※(順不同・敬称略)

## ◆ 法人

愛知大学後援会  
愛知大学同窓会  
愛知リーガルクリニック法律事務所  
宇都宮工業株式会社  
株式会社うぼん  
株式会社えびせんべいの里  
近畿日本ツーリスト株式会社  
株式会社クイックス  
ジャニス工業株式会社  
西濃運輸株式会社  
デュプロ販売株式会社  
税理士法人 東海浜松会計事務所  
トーテックフロンティア株式会社  
トクデンコスモ株式会社  
トヨタカローラ名古屋株式会社  
名古屋トヨペット株式会社  
日本音楽出版株式会社  
(株)ナショナルメンテナンス  
ネットヨタ東海株式会社  
藤岡倉庫株式会社  
株式会社フューチャーイン

株式会社 マルホ  
明治電機工業株式会社  
株式会社 名大社  
ユーティーケー工業株式会社

## ◆ 個人

青 野 吉 伸  
荒 木 仁 子  
石 川 光 男  
伊 藤 広 済  
稲 垣 信 行  
岩 田 喜 久  
内 山 隆 司  
遠 藤 精 基  
岡 村 幹 吉  
加 藤 春 雄  
加 藤 満 憲  
鎌 田 史 郎  
岸 田 充 広  
國 島 芳 明  
熊 谷 友佳理  
久 里 和 英  
甲 村 洋 子

小 林 進之輔  
酒 井 強 次  
酒 井 美代子  
佐 藤 隆 子  
庄 田 元 久  
菅 野 隆  
菅 原 宜 彦  
杉 本 みさ紀  
鈴 木 孝 一  
鈴 木 智  
竹 島 良 祐  
竹 島 まこと  
多 田 譲  
土 井 義 昭  
唐 啓 山  
鳥 越 剛  
那 須 國 宏  
西 川 米 子  
橋 本 正 洋  
土 師 幸 夫  
長 谷 川 勲  
長谷川 信 義  
林 一 義

林 昇 平  
林 行 孝  
速 水 利 行  
平 岩 保  
廣 重 美和子  
藤 井 千恵子  
藤 井 明 雄  
藤 岡 勢 理  
堀 田 正 二  
堀 田 久 富  
堀 木 ヒロミ  
松 井 淳 子  
松 下 真由美  
松 野 博 美  
森 繁 美  
安 井 健 治  
安 井 博 子  
山 崎 恵 子  
山 田 功  
山 本 薫  
脇 水 達 生  
和 田 信 敏  
湯 山 義 則

皆様からお寄せいただいた温かいご支援に心よりお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

※本財団に寄附した年会費及び寄附金は、法人税・所得税・名古屋市企業寄附促進特例税制の優遇の対象となります。(詳しくは、税務署、名古屋市へお問い合わせください)

## 「感謝状」授与式

2019年12月7日愛知大学名古屋校舎で実施

公益財団法人愛知大学教育研究支援財団は、発足以来、同窓会及び後援会からの寄附に加え、皆様方からの寄附を始めとするさまざまな形でのお力添えにより、事業を実施しており、お陰様にて順調に教育研究支援を進めて参ることができ、心から感謝申し上げます。こうしたご厚意に報いるべく、2019年度は奨学金を授与した学生の感謝の言葉や抱負を直接お届けしたいとの思いから、寄附者を2019年12月7日(土)の奨学金授与式にご招待し、その後引き続いて、名古屋校舎研究棟19階M1901教室において、感謝状授与式と感謝の集いを開催しました。



## 【感謝状等贈呈者】

(法人)宇都宮工業株式会社様、ジャニス工業株式会社様、税理士法人東海浜松会計事務所様、  
トヨタカローラ名古屋株式会社様、名古屋トヨペット株式会社様  
(個人)内山隆司様、那須國宏様、山崎恵子様

2012年11月、より地域社会に貢献する人材の育成を重視した財団として、公益財団法人「愛知大学教育研究支援財団」を設立いたしました。本財団は、愛知大学における学術研究及び教育活動を支援し、もって広く学術の発展と教育の充実、不特定多数の利益の増進に寄与するための事業を実施しています。ひとりでも多くの研究者や学生、ひとつでも多くの事業に助成が活かされることを願って、幅広く応募の機会を開いています。これらの事業は、同窓会費・後援会費を始め、広く一般企業・個人の皆様の会費・寄附を貴重な原資としております。今後とも活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## ■ 財団の基本情報

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 名称     | 公益財団法人愛知大学教育研究支援財団            |
| 設立日    | 1965(昭和40)年9月7日(財団法人 愛知大学同友会) |
| 移行日    | 2012(平成24)年11月1日              |
| 代表者    | 理事長 加藤満憲                      |
| 事務局    | 〒461-8641 名古屋市東区筒井2-10-31     |
| 電話番号   | (052)937-8156                 |
| FAX    | (052)937-8157                 |
| e-mail | kouyu@aichi-u.ac.jp           |
| ホームページ | http://www.aichi-u.ac.jp/aers |

## ◆ 同窓会長・後援会長ご紹介 ◆

### 愛知大学 同窓会会長 土井 義昭

公益財団法人愛知大学教育研究支援財団は、2012年10月に愛知県から設置認可がなされ、その翌月に設立されました。それ以前は、一般財団法人愛知大学同友会として、愛知大学同窓会の資金の一部を寄附することにより運営を続けてきましたが、2008年からの公益法人制度改革の施行により、財団法人としての在り方を見直すこととし、新たに公益法人に移行したという経緯があります。法人組織が変わっても、愛知大学への支援という基本的な目的は継承しながら新たな事業を展開しました。その一つとして「知のミーティング助成金」の創設があります。これは、大学と自治体などの連携による一般市民向けの講座や、研究所・学会などが主催して一般市民を対象とした講演会、およびその他学術面でのイベント・講演内容をまとめた書籍等の発行に対して必要な経費を助成するもので、公益性を重視した取り組みとしております。さらに、勉学意欲の高い東海四県以外の高等学校出身者を全国から募集し、一般入試を受験・合格し、愛知大学に入学した学生を対象に経済的支援を行う「知を愛する奨学金」も新たに設けました。愛知大学は創立から70年以上の歴史において、約15万人の卒業生を輩出しており、同窓生は全国各地で活躍しております。かつてのように全国から優秀な学生を集めたいとの思いは、大学と同窓会とで一致しています。

愛知大学の「建学の精神」あるいは「第4次基本構想」において、人材育成は重点項目となっており、教育研究の充実に加え「学生のキャリア支援」を強化しています。本財団としても従来から「キャリア教育事業助成金」として就職プログラム実施のための経費にたいする財政支援を行っております。また、大学では学生・新卒者が参画するキャリア・アドバイザー制度「Ai-CONNEX」(アイ・コネクス)が2018年度より新しく立ち上がり、同窓会とも組織的な連携を構築しております。

愛知大学後援会からの寄付も本財団の大きな財源となっています。同窓会と共に「物心両面」において大学を側面から応援する「三位一体」事業の象徴として、公益財団は今後も愛知大学を支え続けて行かなければならないと考えております。引き続き、当財団への皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 愛知大学 後援会会長 山田 哲也

日頃から公益財団法人愛知大学教育研究支援財団の活動に多大なるご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。また、後援会活動に対しても様々なご支援をいただき、ありがとうございます。改めて厚く御礼申し上げます。愛知大学後援会は1953年(昭和28年)に発足し、以来、在学生の父母である会員との連絡を密にし、相互の理解と協力を深め、愛知大学学則において大学全体の目的を「高い教養と専門的職能教育を施し、ひろく国際的視野を持って人類社会の発展に貢献しうる人材を養成すること」に資するために、大学の教育向上と学生の福祉増進に資するとの本会の設立目的を常に念頭におき各種事業を実施しております。

2012年(平成24年)に設立された本財団は後援会と同窓会がそれぞれに行ってきた奨学金寄付事業などを一本化し、愛知大学及び愛知大学生、愛知大学生OBの支援を行っています。現在は奨学金給付に留まらず、学術研究補助、課外活動支援、キャリア形成支援など多岐に亘って支援を展開しています。このような積極的な活動を推進できますのも、趣旨にご理解、ご賛同をいただいた後援会、同窓会ははじめ、広く一般企業、個人の方からのご厚情の賜物です。

先ごろの新型コロナウイルス感染拡大を含め、社会を取り巻く環境は刻々と変化をしています。決して先行きの明るいことばかりではありません。しかし、私たちは今後の日本経済を牽引し社会を担う若者を育てていかなければなりません。大学の掲げる「自立・自走する力」を養わなければなりません。大学内で学ぶべきことは学内での授業だけではなく、所属ゼミでの課題での研究、クラブ・サークル活動、ボランティア活動など目を外に向け吸収すべきことは数多く存在します。グローバル化が進む中、ひとつでも多くの経験を重ねることが可能性を広げ、未来への第一歩となります。

愛知大学には9,795名(2020年1月現在)が在学し、約15万人の卒業生を輩出し社会で活躍しています。今後、ますます本財団が果たすべき役割も増え、支援の場も広がります。私も後援会長として、また同窓生として少しでも役立てる活動をしていきます。

同窓会の皆様にはこれからも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### profile

### 土井 義昭

愛知県豊川市在住  
昭和35年3月 愛知大学法経学部  
経済学科を卒業  
昭和47年7月 宇都宮工業株式会社  
代表取締役社長に就任、  
平成28年6月より取締役会長に  
就任し、現在に至る。

平成25年11月 ユーティーケー株式会社 代表取締役会長(現職)、同窓会活動としては、豊川支部支部長、同窓会(本部)副会長を務めた後、平成26年11月より同窓会長に就任、3期6年を経て現在に至る。この間、愛知県私立大学同窓会連合会会長を歴任、平成28年6月より(公財)愛知大学教育研究支援財団理事(現職)



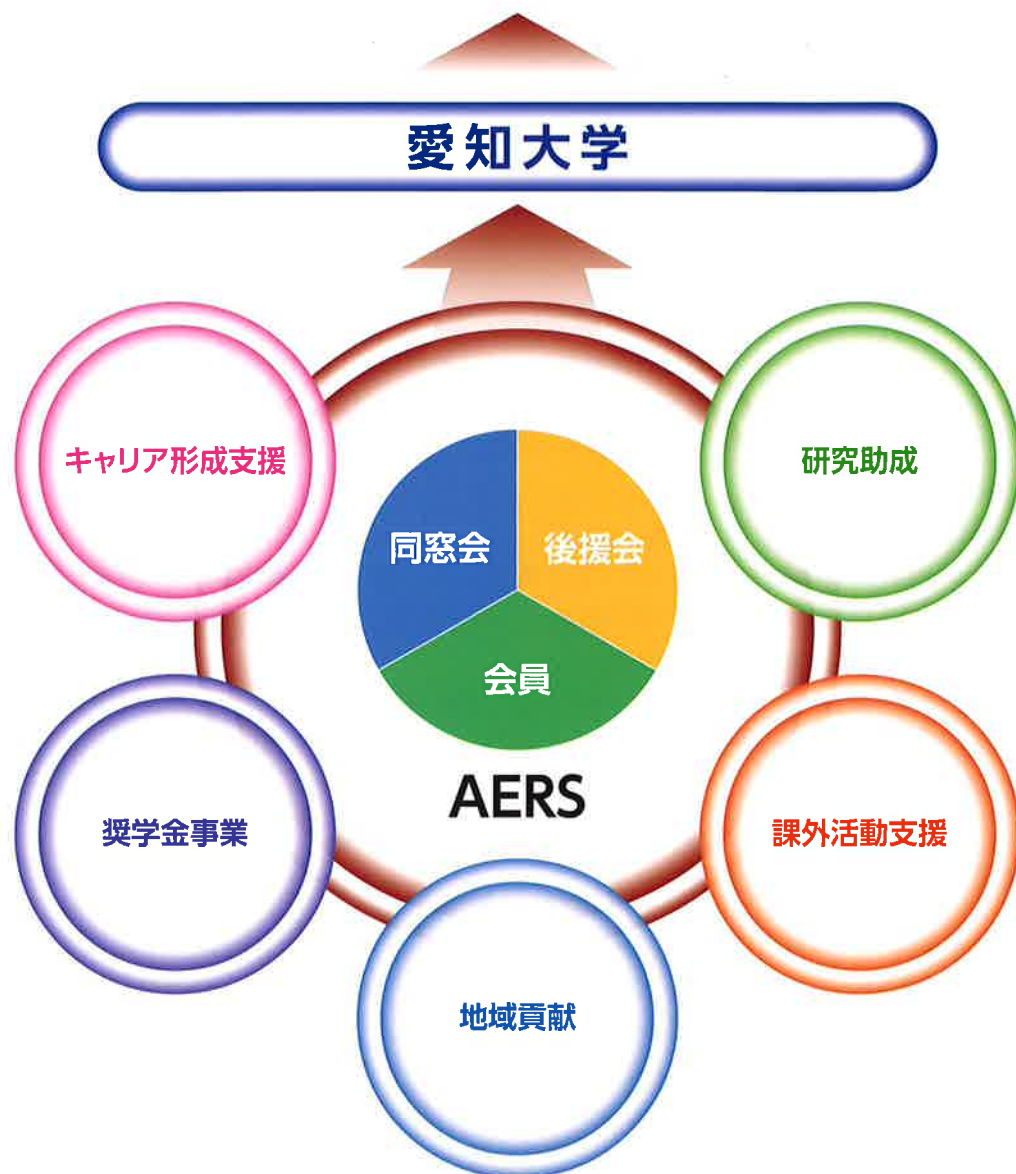
#### profile

### 山田 哲也

株式会社名大社 代表取締役社長  
1966年5月22日生まれ、岐阜県岐阜市出身。  
1989年、愛知大学法経学部経済学科卒業後、株式会社名大社に入社。営業部門にて、東海地区の企業に対し新卒採用、中途採用の支援を行う。  
その後、営業マネージャーの傍ら、インターネット事業の責任者、大学サポートの責任者の業務を担当。副社長を経て、2010年5月より社長として全体を統括。  
現在は、数少ないFBAAファミリービジネスアドバイザー認定資格者として、同族企業の持続的成長支援にも従事。また、経営者向けセミナー、人事担当者向けセミナー、大学内の就職ガイダンスで講演も行う。  
2017年6月より(公財)愛知大学教育研究支援財団理事(現職)



社会で活躍できる優れた人材の育成



知で生きる人へ。

公益財団法人 愛知大学  
教育研究支援財団

AICHI UNIVERSITY EDUCATION RESEARCH SUPPORT FOUNDATION